



環。未ネットだより



しまもと環境・未来ネット（島本町環境基本計画推進活動）

HP<<http://www.kankyo-mirai.net/>> <FB_< a href="https://www.facebook.com/kankyo.mirai.net/">facebook.com/kankyo.mirai.net/>

「環・未ネットだより」3号

発行：しまもと環境・未来ネット
2016年12月

連絡先：島本町役場環境課内

Tel:075-962-2863

Fax:075-961-6298

活動紹介（自然環境部会・みどりの探索ウォークグループ／定期的に、定めた地域の植物を探索して歩きます。探索した植物を、緑マップに記録して行きます。）

※緑マップはHPでもダウンロードできます。

10月29日緑の探索ウォークが行われました。今回は、「JR島本駅周辺」で、市街地、農耕地、丘陵地と植生の変化を感じながら歩きました。



御所ヶ池のところでは、カワセミがお目見え。コバルトブルーの姿が観察会を盛り上げてくれました。



朝9時に島本駅前を出発。

桜井の駅跡はクスノキばかりと思っていましたが、アラカシやムクノキ、ウバメガシ（写）など、

いろいろな木があることがわかりました。

アレチヌスビトハギの種が全盛期で、たくさんのおみやげをくっつけられ、名前の由来に一同納得。



歴史文化資料館の館長からのお話の後、昼食。午後からは島本高校の裏手へと進んで行きます。



農耕地では、タデ科のサクラタデ（写）や、ミゾソバ（写）という、白い愛らしい花が足元を賑わしていました。



高校の裏手は竹林が広がり、鳥獣用の罠（写）があったり、炭焼き小屋（写）があったりと、まるで森の奥地まで来たような感覚です。



一面のキンミズヒキはもう終わりかけ。花の盛りはどれだけ綺麗なことかと想像しながら、名神高速のトンネルを抜けて、再び田んぼへ。



田んぼでは、ウマノスズクサの群落が見られました。これは、ジャコウアゲハの幼虫の食草として知られているそうです。



楽しかった観察会も、資料館に到着し、終了です。よく通る島本駅周辺ですが、歩きながらゆっくり見ると、今まで知らなかった植物や、貴重な植物があることがわかりました。

遠方からの参加者もいて、私たちには見慣れた風景でも、新鮮に映ったようでした。

（中島清子・記）

こんな活動もしています



出前講座

・平成 28 年 7 月 23 日（土）島本町行事、「ワクワク！しまもと環境学校」（水無瀬川河川敷）に、3ブースを出店しました。



◆環境学習部会／人力発電（自転車、手回し）



／外来種説明パネルの展示



◆川美化活動グループ／川美化活動パネルの展示



◆いきもの観察グループ／いきもの当てクイズ

・平成 28 年 7 月 9 日～10 日 町内の青少年活動、「キッズ文月キャンプ（大沢キャンプ場）」に、「野鳥の子育てスライド」と間伐材利用の「鳥の巣箱作り」を出前講座しました。

・平成 28 年 7 月 30 日 町内企業の社内行事、「セキスイ子ども自然塾」のお手伝いをしました。

通常は、夏にはマス釣りは行われませんが、魚協のご好意で、

・マス釣り、・川遊び、・水質検査、・生もの観察、・ソウメン流し、を水無瀬川尺代マス釣り場で行う事ができました。



◆ソウメン流し

前日から、川の近くの竹藪から竹を切り出し、樋を製作しました。川美化メンバーの手際のよい作業です。



◆水棲生物観察



公開講座 (環境学習部会/エコ生活部会)

- ・平成 28 年 7 月 31 日 (日) 講師：仲津英治さん
バイオミクリー「新幹線には野鳥等の形状や機能が・・・」
- ・平成 28 年 9 月 24 日 (土) 講師：細川秀樹さん
生態系、ピオトープってな～に？
- ・平成 28 年 9 月 11 日 (日) 講師：高橋智子さん
電気の地産地消をもとめて
第 1 回 持続可能なエネルギーの選択
- ・平成 28 年 9 月 25 日 (日) 講師：中川慶子さん、島田勇巳さん
第 2 回 島本で電気をつくれるか？
- ・平成 28 年 11 月 20 日 (日) 講師：渡邊政俊さん
「意外と知らない竹の生態」～竹は緑の財産～



◆「島本で電気をつくれるか？ 電気の地産地消を求めて」

木づかいについて学ぼう (森林を元気にするために)

【メンバーによる部会内セミナー/一般参加開催予定】

坂田勝廣 (一級建築士、しまもと環境・未来ネット会員)

日本最古の木造建築は法隆寺です。金堂は慶長年間にも修復され、上層階の軒を支える支柱が追加されました。秀吉の提案で太閤柱とも言われています。このような高度な建築技術を持っていた日本の今を考えます。



◆法隆寺金堂



◆みんなの森 ぎふメディアコスモス



◆港区立麻布図書館

日本の林業は 1970 年代から不振に陥り戦後大量に造成された人工林は放置されている。

原因は戦後の住宅復旧などで木材需要が増大しそれにより木材価格が高騰した。そのため人工林は若くても伐られ、国策だった拡大造林政策により貴重な天然林も伐られ人工林とされた。

一方木材価格の高騰を防ぐため 1950 年代から 60 年代にかけ国内森林は過剰伐採され、1964 年には外材の丸太が自由化され他の木材関連の関税は撤廃された。このため安い外材が大量に輸入されるようになり、国内林業の衰退につながった。

住宅建設施策においても 1951 年に、国の木材資源利用合理化方策が閣議決定され都市建築物の耐火構造化と木材の消費の抑制策を進めた。

木材価格についてはピークの 1981 年で、檜中丸太 7.6 4 万円 / m³、杉中丸太 3.96 万円 / m³であったが 2012 年では其々 1.85 万円 / m³、1.26 万円 / m³と下落した。

1985 年のプラザ合意以降の円高でいっそう外材との価格競争は不利となった。1995 年の阪神淡路大震災で、戦後の物資不足に時期にたてられた古い木造住宅に被害が多かったため、非木造の住宅の需要が増えた結果、1955 年には 94.5% あった木材自給率は 2002 年には 18.8% まで低下した。 (裏面へ)

●「木育」の成り立ちと意義

2006年に閣議決定された森林・林業基本計画では『市民や児童の木材に対する親しみや木の文化への理解を深めるため、多様な関係者が連携・協力しながら、材料としての木材の良さやその利用の意義を学ぶ、「木育」ともいべき木材利用に関する教育活動を推進する』とある。

林野庁からの委託を受け木育推進体制整備総合委員会を運営した日本木材総合情報センターでは、「木育」を、「木材や森林との関わり合いから、知育、徳育、体育の3つの側面を効果的に育む取り組み」とし、社会的協同によって効果的に実施・普及させる必要があるものとした。東京おもちゃ美術館が設置した赤ちゃん木育広場など、子育て支援施設に対する木材利用推進（社会インフラストラクチャーに対する木材利用の推進）も木育の取り組みとして重要である。

●木で未来を創ろう I N大阪府

産経新聞主催、地域で産出される木材を利用する大切さや、地域木材を活用した家やリフォーム、木製品の特色やメリットを伝えるシンポジウム「木で未来を創ろう！ I N大阪府」が2014年4月に開催された。林野庁・本郷浩二森林整備部長の「地域材の利用活用の促進に向けて」の講演があり、パネルディスカッション「大阪府における地域材利用：現状と未来」。



◆JR上越妙高駅 東口（もてなしドーム）

トークショー・真鍋かおりの後、5月から公開される「WOODJOB～神去なあなあ日常～」の試写会が実施された。

●「ウッド・エンジニアリング」を採用したサーモウッド

ヨーロッパで熱処理木材の技術が開発され、地元の植林木を使ったサーモウッドが普及した。日本でも輸入材として使用され始めたが、K木材工業が日本の気候風土や建築法規に適合する高温水蒸気による熱処理技術へ技術改良した。これにより2006年から国産材のサーモ材（コシスーパースーモ）が国内生産できるようになった。

ノンケミカルで寸法安定性（われ、そりの防止）に優れ、防腐性（耐久性）が高く、熱伝導率の低下（断熱性）、軽量化が図られた。

※事例写真提供、越井木材工業

坂田さんの「木づかいについて学ぼう」は、紙面の関係で、抜粋で掲載させていただきました。オリジナルは、写真やデータを駆使され、論旨を盛り上げておられます。

しまもと環境・未来ネット HP / [会報誌・資料等] (www.kankyo-mirai.net/data) から、PDF ファイルで閲覧いただけます。（予定の部会内セミナーの原稿でもあり、一般参加も検討しています。）

木材の利用は、CO₂の固定とか、幼児期に木に触れることの大切さ、など、その価値が益々見直されて来ています。